

令和2年度第2回狭山市社会教育委員会 会議録

開催日時	令和2年8月18日(火)			
	14時00分から16時00分まで			
開催場所	教育センター 大研修室			
出席者	向野教育長			
	西村委員	野村委員	高橋委員	今福委員
	江頭委員	角田委員	齋藤委員	黒川委員
	小熊委員	吉田委員	八瀬邊委員	菅野委員
	横山委員	平岡委員		
欠席者	福岡委員	関根委員	吉田(久)委員	恵比須委員
	中間委員	高久委員		
事務局	金子生涯学習部長	奥富社会教育課長		
	松川	小暮	山口	
傍聴者	0名			

1 開 会

2 あいさつ 議長、教育長

3 議 事

(1) 第6次狭山市生涯学習基本計画の策定について

○資料1「第6次狭山市生涯基本計画の策定方針」について事務局から説明

なお、新型コロナの感染拡大が策定スケジュールに影響を及ぼしているが、
年明け2月頃にはパブリックコメントへの流れを考えている。

委 員 現在策定中の第4次狭山市総合計画の無作為抽出の検討委員として協力をしたが、市の財政状況等が分からない中で、策定に関わるというのは無理があるように感じた。今後は公民館事業等で、市について学ぶ機会を増やしていき、そこで学んだ方を各種計画の委員等として参加してもらおうということも考えていく必要があるのではないか。

事務局 事業を考えていく中で今後検討させていただきたい。

委 員 第5次計画の際には、協働によるまちづくり条例は制定されていなかったと思うが、条例が制定されたことを受けて、どのような考えなのかを教えてください。

事務局 市として市民の方たちとの協働を大切にしていこうという方針なので、そういったエッセンスを取り入れながら、様々な事業の企画、実施等に反映できるように考えていきたい。

委員 先ほどの委員の発言とリンクするが、生涯学習を通じて、協働の意識を育てるというのは公民館の講座等で養っていくというのも大事だと思う。その辺りの考えが今まで欠けていたように感じるので、まちづくりに市民を積極的に活かそうという考えであれば、公民館事業や、社会教育の中でその辺りの意識の醸成をするということも大事なのではないか。そういったものは計画の中に具体的にはいってこないのか。

事務局 今回、社会教育委員会議で検討していただく中でも、方向性やポイントについてご意見をいただき、具体的な計画の中身は、庁内検討委員会等で肉付けをしていき、それをまたご覧いただきご意見をいただくというものの繰り返しになると思う。現時点でいただいた意見を文言としてどこまで反映できるかは分からないが、その辺りを気に留めながら進めていきたいと考えている。

議長 事務局から説明があったとおり、流れについては意見のキャッチボールを積み上げていくという形で問題ないと思う。お互いに、ここはこうしていくという仕分けをきちんとしていかないと協働はうまくいかないと思うので、その辺りは計画の中で上手に進めていってほしい。

○資料2「狭山市の教育・生涯学習・スポーツに関するアンケート調査結果報告」 について事務局から説明

委員 前回の第5次策定時のアンケート調査の回収率が約3割だったのに対し、今回の回収率は約5割となっているが、今回未回収の方の分析等は行っているか。

事務局 未回収分の分析については特に行っていないが、市民の方からのご意見をいただくものとしてアンケート以外にも、関係団体からのヒアリングや関係する各種審議会から意見をいただく事を予定しているので、そういったところで少しでも補完していきたいと考えている。

委員 未回答者が生涯学習に関心が無いのか、アンケート回答をする時間的余裕が無いのかなど、どこにカテゴライズされるかで、戻ってきたアンケートの分析の意味合いが大きく変わると考える。未回答者について対面形式での抽出調査

等を実施するなども考えてもらいたい。回答者が毎回同じ方だけの場合、偏った計画になる可能性もあり、資料3に記載されている目標値に達していない現状につながりかねないと考える。

事務局　今回実施したアンケートは、教育振興基本計画、スポーツ推進計画も合わせたものなので、いただいた意見を持ち帰らせていただき、関係課と協議の上、どのような対応がとれるか検討していきたい。

委員　「地域の教育力が機能していると思いますか」の問に対して、全ての調査対象で、約5割が機能している（ある程度機能しているを含む）と回答している。「保護者や地域の方が主に担うべきだと考えることはなんですか」の問では、保護者が担うべきこととして、「礼儀やルールマナーについて教えること」や「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の回答が多かったが、どんな場面でどんなふうに教えていくのかという考えを、サンプリング等でも構わないので聞いてみたい。同様に地域の方が担うべきことについて、回答が多かった項目について、どんな場面でどんなふうに教えていくのかという考えを聞いてみたい。一方、「あなたは、お住いの地域にある学校を支援する活動に参加したいと思いますか」の問に対する回答では、参加に意欲があるまたは興味がある人は3割と非常に少なく感じる。そのような中でどんな場面でどのように関わっていくのかということは具体的に考えていく必要があると感じる。

事務局　直接回答者に聞いていくのは難しいと思うが、いただいた意見は参考にさせていただきたい。

委員　この1年間に生涯学習を行ったかについての問に対し、10歳代では56.5%が「行っている」と回答しているが、一方で生涯学習を行っていない理由についての問に対し、10歳代の40%が「あえて学ばなくても不自由していない」と回答する結果となった。10歳代から生涯学習に興味を持ってもらえるのかを考える必要がある。「あえて学ばなくても不自由していない」というのは、情報の取り方にも関係があると思うが、地域での取り組みや、市の取り組みも考えていく必要があると思う。周りを見てみると若い方は生涯学習にあまり興味がない。興味のあることについては、すごく興味を持つが、他のことには目を向けようとしなないというところがあり、生涯学習にも興味を向けてもらえるように考えなくてはいけない。

事務局 若い世代に興味を持ってもらうという部分については悩ましいところではあり、ターゲットを意識した講座づくりも必要だと考えている。

委員 生涯学習情報の入手方法についての問では、広報さやまや自治会回覧、友人からの口コミが多い点からみると、情報を取りにいくというよりは、身近なところで情報を受け取っているように感じる。その辺りを有効に活用できれば良いのではないかと感じる。

議長 情報の入手方法は広報さやまからが多い結果となったが、市が本来狙っている情報入手方法は、公式ホームページや「さやマルシェ」を活用したものだと思う。この辺りのジレンマについて市の考えを聞かせてもらいたい。

事務局 今回のアンケート結果を見ていると、ネット環境を利用して情報を入手される方がもっと伸びてくると思っていたが、実際にはうまく伸びていない状況である。今の若い世代だと興味のある情報にストレートに行き着けることが多いが、高齢の方だと情報機器の操作に不慣れな方も多いため、その辺りが今回のアンケートの結果に反映されていると考える。情報の取り方については課題であることは認識しており、ホームページの掲載方法等も検討していきたいと考えている。

議長 今後ネットがもっと浸透していけば、ホームページ等での情報入手が増えてくるとは思うが、今後もアナログとデジタルの両媒体での情報提供は必要だと考える。ネットだけでなく、広報さやまでの情報提供にも力を入れていきたい。

事務局 今回のアンケート結果に限った話ではないが、資料では、見方によっては間違った解釈になってしまう可能性もある。回答者の年齢などでも非常にばらつきが多く、70歳代の比率が高く10歳代の比率が低いなど、そういった背景があつてのアンケート結果だという見方をしないといけないと思う。クロス集計などでも回答者数が少なかった年代だと一人の動きが大きく、また、回答者数が少ないところの傾向は掴みづらく、突出した意見になる場合があるので注意が必要だと思う。

委員 70歳代は団塊の世代、40歳代はベビーブーム世代なので、無作為抽出でも配布数や返却数は多くなると考えられるが、市の人口を反映したものであるため、人数が多い世代だということは認識していてもよいと思う。ただし対象

世代のうち10歳代の回答が少ないというところは気を付けないといけないと思う。広報さやまが情報入手手段として多いのも高齢者が多いという見方ができなくもない。今回、回答してくれたのは、同じ10歳代の中でも、特に生涯学習に熱心な方だと思うので、その辺も割り切って考えたほうが良いと思う。

委員 計画の策定には必要なのだろうが、アンケートの調査項目が多く、回答にするのに時間がかかるため、関心の低い方は回答しなかったのではないだろうか。その辺も回収率に関係していると思う。もう少し簡略化したほうが回答する方の負担も減り、回収率も増えると思う。

事務局 今回のアンケートは3計画に係るものだったため回答者には負担が大きかったかもしれない。次回策定時にアンケートを実施する場合は、もう少し簡略化できるように検討していきたい。

議長 前回との比較との関係もあり調査内容を大きく変えるケースは少ないが、時代にフィットしたアンケート形式にした方が良いのではないか。

委員 講座を受講することや、仲間とともに学ぶということが「生涯学習」と捉えられているように思われるので、「生涯学習」の定義をかみ砕いて説明することが必要だと思う。

委員 生涯学習といわれても一般的には分かりにくいと思う。

委員 新聞を読む、気になったことについてネット検索をするなども生涯学習にあてはまるので、まったく生涯学習をしていない人はいないと思う。

事務局 アンケートの質問の中で「生涯学習」について記述しているが、説明文が短いものなので人によって捉え方が様々であったかもしれない。分かりやすい形で伝えていくことが課題になると思う。

委員 行政に力を入れてほしいことは何かの間では、「講座」という文言が目立ち、市民に市はこういうものが生涯学習だと捉えていると考えられるように感じられる。

事務局 この設問は行政の施策についての調査だったため、このような項目になっている。

委員 市が市民に対し、趣味で行うものも生涯学習だとしっかり示していくことが必要だと思う。

議長 教職員の回収率が79.7%と非常に高く、自由記入欄の回答を見ると自分の意見を言える場所が少ないのではないかと感じた。教職員の意見には良いものも多いので上手く吸い上げてほしい。

○資料3「第5次狭山市生涯学習基本計画の進捗状況」について事務局から説明

委員 目標値については令和2年度の目標値なのか。それとも一般的な目標値なのか。

事務局 令和2年度の目標値である。

委員 目標値は現在のコロナ禍を想定したものとなっているのか。

事務局 考慮したものにはなっていない。

委員 家庭教育の事業の実施件数について、数え方はどのようになっているのか。単位PTAには年4回以上の開催という委託をうけて実施しているが、それを1件と数えているのか。

事務局 ひとつのPTAに対して1件の委託ということで集計している。

委員 家庭教育事業の目標値は73件となっているが、何か実施する予定の事業があったということか。

事務局 家庭教育学級の委託等は継続してPTAにお願いしているが、その他に公民館事業等での取り組みを期待して目標値を定めたものである。

委員 人権教育は人数、家庭教育は件数、地域子ども教室は人数で集計されているが、人権教育などは研修会の件数もあると思うので、件数と人数を併記する形の方が分かりやすいのではないか。地域子ども教室も同様に数と延べ人数を併記したほうが分かりやすいと思う。家庭教育学級は、PTA数が決まっていることから、件数ではなく参加人数、または、件数と人数併記とする方が、実施しているPTAとしては数字がきちんとでるので良いと思う。

事務局 他の計画との兼ね合いもあるので、すべて対応できるか分からないが参考にさせてもらいたい。

議長 新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった団体活動も多いと思うが、事務局で何か把握しているものはあるか。

事務局 地域子ども教室については把握しているが、それ以外については学校の状況も見ながら、どのように進めていくか考えていく必要がある状況である。以前のような活動状態に戻るにはまだ時間がかかるとも考えている。

委員 コロナ禍のため、サークル活動も休止している団体が出始めている。生涯学習情報コーナーへの問い合わせも電話でのものが多く、内容的には英会話や将棋関係のものが多い。

※委員より地域子ども教室、SSVCの現状、市民大学の現状について補足説明あり

委員 学校応援団への参加者数について、参加者数は各学校からの報告を集計したものなのか、または、コーディネーター等からの報告を集計したものなのか。活動内容も多岐にわたっていると思うが、何か基準があるのか。

事務局 各小中学校からの報告をまとめたものであり、ボランティア数として報告があったものである。

委員 ボランティア数は延べ人数なのか、保護者だけなのか。

事務局 保護者以外の方も含めた、年間のボランティアの延べ人数である。

委員 狭山市の図書館は中央、狭山台の2館と移動図書館だけであるが今後、図書館を増やす計画はあるのか。生涯学習の基本は読書であり、図書館を充実させる、増やしていくということは生涯学習の基本になると思う。

事務局 現在のところ、図書館を増やす検討はされていない。

委員 読書について社会教育課の考えは。

事務局 読書の重要性、特に子どもの読書の経験は、人が成長するうえで大きな糧になるということは認識している。また、子どもだけでなく様々な年代の方にも活用していただきたいと考えている。

委員 子どもの読書も大事だが、健康寿命を延ばすという説もあることや生涯学習という観点からも、高齢者の読書も重要なものだと考えている

委員 計画の進行管理上、数値目標を設定し、取り組んでいくということは大事だと思うが、すべてに数値目標を設定するのは難しいと考える。第6次計画でも第5次計画を踏襲した数値目標を設定するのか。それとも数値目標もある程度変更していく考えなのか。

事務局 基本的に生涯学習、社会教育の状況を測るうえでの必要な項目として、継続して掲げているものであり、現行のものをベースに考えていきたい。

委員 検討は庁内検討会議でつめていくということになるのか。

事務局 そのとおりである。

委員 今回数値目標の設定がない取り組みについての評価はどのようになっているのか。

事務局 現時点では、すべての項目については、確認ができていない状態である。

委員 すべての項目に目標が設定されているのだから、単年度での評価を含めた目標管理ができる形にしておかねば意味がないと考える。また、第5次計画では「具体的な取り組み」と「取り組みの方向性」の文言がほぼ一緒に具体性に欠けている記述が多い。第6次計画では具体的な取り組みを明記していてもらいたい。

委員 市の取り組みとして、生涯学習をしていない理由への回答を踏まえ、魅力のある講座等を考えていけば、参加者はもっと増えると思う。

事務局 魅力ある講座づくりと情報発信については意識して取り組んでいきたい。

委員 目標値の設定方法はどのように決めたのか。

事務局 基準となる平成27年度までの状況を踏まえたうえで5年先を見据えて設定した数値である。

委員 単年度の目標値は設定しているのか。

事務局 目標値は計画策定時に5年後の数値のみ設定している。単年度の目標値は設定していない。

委員 目標値等を見てみると曖昧な設定方法に見え、計画自体が機能しているのか疑問が残る。アンケート自体も狭山市が何をしたいのかが分からない。ターゲットを絞った調査方法が良かったように感じる。また、インターネットを活用したアンケート調査を検討すべきなのではないか。情報提供についても問題があると思う。狭山学びの仲間たち等の周知もされていないように思う。

事務局 意見としてお聞きする。

議長 ここまで様々な貴重な意見が出たが、取り上げられるものについては活かしていってもらいたい。

(2) その他（事務局より説明）

- ・ 次回の社会教育委員会議は10月30日（金）入曽地域交流センターでの開催を予定している。

4 閉 会

野村副議長からあいさつ